



副校長 廣野 寛子

## 子どもたちに残す環境

急に寒い日が続くようになり、暖冬に慣れた身には厳しい季節になりました。1月17日の朝は、山田副校長が朝の見回りで屋上のプールの水が初めて凍ったのを見付けました。

日本の今年の夏は計測史上最高の気温でした。東京でも年間の猛暑日日数22日、真夏日日数90日過去最多で、64日連続の真夏日(7/6~9/7)も過去最多でした。世界的に平均気温が上がってきているため、北極の氷や各地の氷河が溶け出して海面が上昇しているというニュースも見かけます。私が子どもの頃は、日本は四季のある穏やかな温帯の気候だと習ったのですが、最高気温の上昇やゲリラ豪雨の頻度などを見ると亜熱帯の気候に近付いている気がします。

しかし、このような気候の中でも校庭の葉の落ちた木々を見ると、枝には小さな茶色のかたまり(冬芽)がびっしりついて、春に芽吹く準備をしていることが分かります。植物は、季節による

態様は、変わらずとも変化のスピードが以前と違うことを実感します。私たち教職員は、桜は入学式の写真に写るものという意識があったのですがここ数年は卒業式にと移行しています。

高学年の総合的な学習の時間の調べ学習にSDGsを題材として選ぶ児童も多くなります。SDGs「持続可能な開発目標」は2030年までに各国が達成すべき17の世界的目標として示されたものです。ご存じのように17になかには「貧困」「差別」「平和」などありますが、中でも「気候変動」は、日々の生活を見直すという実践が大切です。子どもたちの生きる未来に安全な環境を残したいと思います。



## 2月の生活目標「せすじピンク! 参上!」

寒さがピークを迎え、日に日に厳しくなっています。しかし、「子どもは風の子」という言葉の通り、休み時間には、校庭で元気に遊ぶ子どもたちの声が聞こえてきます。その一方、校舎内でも上着を脱がずに過ごしていたり、寒そうに背中を丸くして授業を受けていたりするお子さんを見掛けることがあります。中に着ている衣服で調節できるよう、ご家庭でもお声掛けをお願いします。また、背筋を伸ばす、骨盤を立てて座る、など正しい姿勢を続けると骨格や筋肉が強くなり、丈夫になるという良い面があります。成長途中の児童にとっては、とても大切な事です。

2月4日は「立春」。暦の上では春を迎えます。重いコートを脱いで、姿勢を整えながら元気にすごしましょう。

